

海外出張報告書

2013 年 3 月 29 日提出

| | |
|------|---|
| 氏名 | 境 瑞紀 |
| 所属 | 公衆衛生学教室 |
| 学年 | 博士課程 2 年 |
| 出張先 | テキサス大学ガルベトン校(The University of Texas Medical Branch (UTMB)) |
| 出張期間 | 2013 年 2 月 24 日 - 3 月 1 日 |
| 目的 | UTMB におけるリーディングプログラムのインターンシップの受入可能性の検討とバイオセーフティレベル 4 (BSL4) 施設の見学 |

[活動内容]

リーディングプログラムのカリキュラムにおけるインターンシップの受入先となり得る海外の研究室を探索すること、及び現在日本では稼働していない BSL4 の実際の稼働状況を視察することを目的として、テキサス大学医学部ガルベトン校 (UTMB) を訪問した(図 2)。本訪問の引率者である公衆衛生学教室の好井助教が UTMB に留学していた際の当時の同僚であり、現在の Department of Pathology の主任研究員(PI)である Dr. Alexander Freiberg の案内のもと、(1)感染症研究を行なう研究室の PI との面会と、(2)稼働中の BSL4 の施設見学を行なった。



図 1 UTMB の Galveston National Laboratory。稼働中の BSL4 施設を持つ。

(1) 感染症に関する研究室の PI との面会

インターンシップの受け入れ先となる可能性について、以下 6 つの研究室の PI の方々と話し合いを行なった。

- **Slobodan Paessler, PhD, DVM**

Director, Galveston National Laboratory Preclinical Studies Core,
Director, Animal Biosafety Level 3, Institute for Human Infections and
Immunity, Professor, Department of Pathology

- **Alan Barrett, PhD**

John D. Stobo, MD Distinguished Chair, Director, Sealy Center for
Vaccine Development, Professor, Department of Pathology

- **Alexander Freiberg, PhD**

Director, Robert E. Shope BSL-4 Laboratory, Assistant Professor,
Department of Pathology

- **Alexander Bukreyev, PhD**

Professor, Department of Pathology

- **Tetsuro Ikegami, PhD, DVM**

Assistant Professor, Department of Pathology

- **Shinji Makino, PhD**

Edgar and Mary Frances Monteith Distinguished Professorship in Viral
Genetics, Professor, Department of Microbiology and Immunology

以上の PI との面会において、好井助教からリーディングプログラムのインターンシップの目的の説明と、我々大学院生から各自研究の簡単な紹介を行なった。いずれの PI の方々からも、滞在期間によるが基本的には受け入れが可能であろう、という返答を頂くことが出来た。また、実際に筆者がインターンシップを受け入れて頂く際の、研究テーマや日常生活に関する具体的なディスカッションも行なった。

(2) BSL4 施設の見学

UTMB は、BSL4 が稼働中であるアメリカ国内でも数少ない大学研究機関の一つである。今回 Dr.Freiberg の案内により、実験に使用中の BSL4 施設をバッファゾーンから見学させて頂いた。またインターンシップ中の BSL 使用資格に関するトレーニング受講についての説明を受けることが出来た(図 2)。



図 2 BSL4 施設使用についてのトレーニング部門にて（写真中央は実際に BSL4 で使用する防護スーツ）。

[感想]

今回の訪問で、UTMB におけるインターンシップの計画をより具体化させることが出来ました。またこれまで実際に見た事のなかった BSL4 施設を見学し、その規模の大きさや施設運営に関わる関係者の数の多さ、及び各技術者の専門性の高さを、実際に見て体感するという大変貴重な経験をさせて頂きました。それにより、BSL4 を利用して危険性の高い病原体の取扱う研究は、想像していた以上に多くの労力を伴って実現され得ることを、身を持って知ることが出来ました。本訪問をご支援下さった関係者の方々に厚く感謝申し上げます。